

2014「会員相互研修会」報告 No.1

研修委員会（メンバー：黒瀬委員長、他 4 名）で企画を立て、経験豊かな会員さんに講師役をお願いしたりしながら進めています。

今回は、すでに終了した 3 回分の研修会について簡単にご紹介します。

◆年間計画

回	開催日	講師役	テーマ	参加者
1	7月17日(木)	研修委員会	外国人政策について学ぶ	10名
2	9月20日(土)	長阪たか子さん	日本語能力試験の学習支援について	14名
3	11月1日(土)	研修委員会	みんなで共有ーレッスンの工夫！	15名
4	2015年 2月8日(日)	望月敏子さん	敬語について	

(1) 第1回：「外国人政策について学ぶ」

日本は少子化の影響で将来的に人口減が予想され、様々な分野で外国人労働力を期待する声が聞かれます。山梨県でも EPA（経済連携協定）で来日し、介護の現場で働くインドネシア人介護士がいます。

では、国は将来を見据えて、どのような政策を立てているのでしょうか。日本語支援に携わる身として、やはり知っておきたい。そこで、国が公表している資料（年 20 万人の外国人受け入れ、外国人技能実習制度、国家戦略特区など）を収集、資料を基に話し合いました。



★参加者の声より

- ① 技能実習制度を隠れ蓑として、低賃金の労働者として使っている実態に驚いた。
- ② 学習の良い機会になった。問題意識を持ち続けたい。
- ③ 現実に矛盾や怒りを感じ、同時に自分に何ができるか、と考えてしまった。
- ④ 社会の流れは早い。賢くなければ生きていけない。
- ⑤ ドイツの移民政策の紹介記事を読んで、納得することが多かった。 等

(2) 第2回：「日本語能力試験の学習支援について」

日本語を学ぶ方々のニーズは多様です。日常生活で使えるようになりたい、会話力を高めたい、子供が学校からもらってくる配布物が読めるようになりたい、仕事で使いたい等、様々です。また、最近は日本語能力試験に挑戦する方も増えています。自分の実力を知りたい、学習の動機を高めたい、仕事につなげたい、などです。

本会では、日本語能力試験合格を目指す方を対象とした中級クラス（木曜日）を開講しています。また、マンツーマンで学んでいる方もいます。そこで、日本語能力試験の支援を依頼された場合、どのような点に注意すればいいかを学ぶことにしました。

研修会では、①日本語能力試験の概要説明（歴史、受験者の推移、配点、問題数、等）、②「試験問題（今回はN2レベル）の内容分析」、③「N2の聴解問題に挑戦」、④「指導のコツ」、⑤「テキスト紹介」、そして最後に質疑応答を行いました。



(写真：高石)

★参加者の声より

- ① 試験問題の内容分析をやってみて、わからない項目があった。出題の意図を知って指導することの必要性を感じた。
- ② N2 の聴解問題を実際にやってみると、意外に難しいと思いました。本番では一度しか聞くチャンスがないので緊張しますね。集中力が試されます。
- ③ 短期集中の場合、長期的に取り組める場合、それぞれのテキストが紹介され非常に参考になりました。 等

(3) 第3回：「みんなで共有—レッスンの工夫！」



本会は中級クラスを除くと、大半がマンツーマンでレッスンを行っています。受講者の個別のニーズに対応できる利点は大きいのですが、ボランティア側としては悩みも出てきます。例えば、自分のやり方はこれで良いのだろうか、他の方はどのようにしているのだろうか、長くやっていると自己流かつマンネリが心配だ、などです。そんな会員の悩みを解消すべく、皆で智恵を持ち寄ることにしました。

話題提供を三井さや花さん（峡北地区）と黒瀬勝久さん（甲府地区）にお願いしました。三井さんは会員歴3年目、黒瀬さんは今年入会です。担当した受講者への対応、レッスン時の悩み、さらにそれを乗り切るための工夫などを紹介していただきました。また、三井さんからはインターネット上で参考になる各種サイトの紹介もありました。

次に、研修委員会メンバーが教材類を持ち寄り、その使い方を紹介しました。紹介されたのは、アルク出版の「スーパーキット」（現在は発売中止）、各種テキストや参考書、身近で手に入る資料（地図、観光パンフレット、スーパーのチラシ、カルタ、お節料理や雛人形のカタログ、各種催し物のチケットなど）、教具（ホワイトボード、100円ショップのお役立ちグッズなど）です。また、参加者からも、自作教材の紹介や工夫の実演がありました。



★参加者の声より

- ① 発表が内容的にも視覚的にも非常に分かりやすかった。
- ② 教材などを具体的に紹介してもらったので参考になった。
- ③ ここしばらく受講者から離れていたが、良い刺激を受けた。

（報告/写真:稲谷いく子）